

災害時の心がけ

避難時の心得

特に洪水時に避難する際は、河川の管理道路の利用は避けましょう。水があふれたりする場合があります大変危険です。



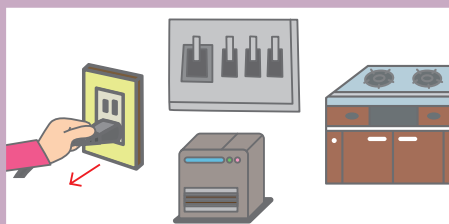
マップで最寄りの避難所の位置を前もって確認しておきましょう。



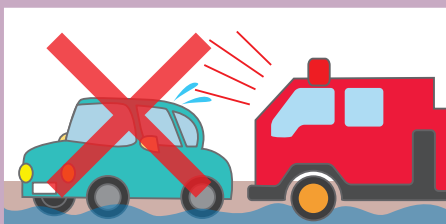
ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。



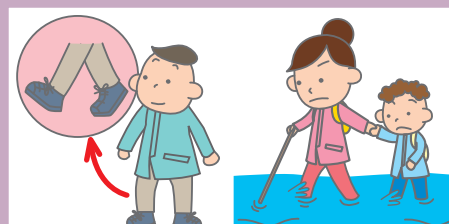
避難の時は、市役所・消防署・警察署などの指示に従い早めの避難をしましょう。



避難する前に電気・ガス・火の元を確認しましょう。コンセントからプラグを抜きブレーカーを切る。ガスの元栓を閉める。



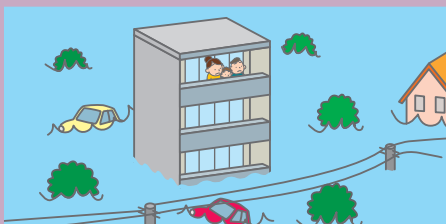
浸水深が30cmを超えるとエンジンが止まり、動かなくなり、車に閉じこめられたり、流されたりするなど非常に危険です。



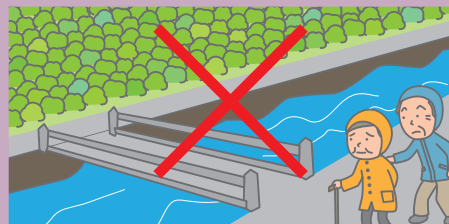
長靴を履かないで運動靴を履きましょう。歩くときは傘や長い棒を杖代わりにして、足元の安全を確認しながら歩きましょう。



市役所、消防からの避難の呼びかけに注意しましょう。



万が一避難が遅れ、危険が迫った場合は近くの丈夫な建物の三階以上に逃げましょう。



河川や水路に近づいたり、田畑や用水の様子を見に行くのは危険ですのでやめましょう。

要配慮者への協力を

体の不自由な方やお年寄りの方は避難することが困難であったり、遅れたりすることがあるため、地域の皆さんで協力して助け合いましょう。

目の不自由な方には



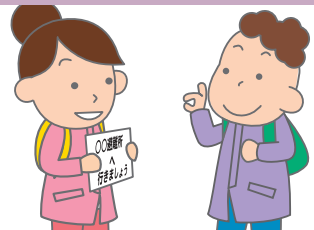
「お手伝いしましょうか」などと大きな声でゆっくり話しましょう。杖を持っていない側にまわり、ひじのあたりを軽く持ち、半歩前をゆっくりと歩きましょう。

一人暮らしのお年寄りの方には



特に一人暮らしのお年寄りの方には普段から気を配りましょう。

耳が不自由な方には



話すときは近くまで寄って相手にまっすぐ顔をむけて口を大きくはっきりと動かしましょう。紙に書いたり、身振りなどで情報をわかりやすく伝えましょう。

体の不自由な方や寝たきりの方には



複数の人で協力しましょう。緊急の際は、ヒモなどでおぶって避難しましょう。車いすの場合は必ず3人以上で協力し、上がる時は前向き、下がる時は後ろ向きで避難しましょう。